教員名	松崎　毅　(MATSUZAKI　Takeshi)
所　属	文教育学部言語文化学科英語圏・欧州言語文化講座
学　位	文学修士　(1985　東京都立大学)
職　名	助教授
URL　／　E-mail	

◆研究キーワード

17 世紀　／　イギリス文学　／　王党派　／　ジャンル　／　隠蔽

◆研究内容

ここ数年は科研費研究との絡みがあり、17 世紀イギリス王党派文学をジャンルの使用という観点から研究している。内乱における敗北と議会派政府による言論統制という抑圧的な政治状況下に、イギリス王党派文学は政治的に不穏当な言説を偽装する手段として極めて巧妙にジャンルを使用した。これは、テクストの読みが社会構築された解釈の枠組みに依存するものにすぎないという事実を実証するとともに、解釈の枠組みがどのように社会構築されるか、またそれがいかに意図的に構築されうるかという問題に手掛かりを与える。18 年度は、牧歌ならびに哀歌というジャンルがジャンル自体の持つコードを通じ、一見してアポリティカルなテクストのなかにどのようにして政治的・公的言説を生成するかという問題を中心に研究を行った。研究成果は科研費報告書にて発表の予定。

◆教育内容

コア英語科目は、近年の学部生の語彙力と文法理解の低下に歯止めをかけるため、昨年度に引き続き語彙・文法について重点的に小テストを行い、全体的な英語運用能力の強化に努めた。

学部専門科目は「英文学特殊講義（イギリス)」で、17 世紀イギリスの宗教詩を扱い、聖書・教会・アングリカニズム・ピューリタニズムなど、英語圏文化のバックボーンとしてのキリスト教について学生の理解を深めた。また、「英米文学演習（入門)」では、S.T. Coleridge の The Rime of the Ancient Mariner をテクストに、英語をその論理だけでなく、イメージとリズムにおいても理解し鑑賞する能力がつくよう訓練を試みた。

大学院修士課程では、Aphra Behn の政治詩をテクストに、王党派女性詩人としての政治性と性政治性の絡みを論じた。

◆将来の研究計画・研究の展望

イギリス内乱期の文学を、テクスト自体にとどまらず、出版形態、読者層の設定、検閲への対処、ジャンルをはじめとする多様な文化的コードの使用等、テクストを取り巻くいわばテクスト文化の総体として読み解くことをめざしている。

◆受験生等へのメッセージ

外国語を学ぶことは、その言語の運用能力を高めるだけでなく、言語を通じてなされる人間の様々な文化的営為を通じ、人間や社会や芸術について理解を深めることでもあります。言葉そのものよりも、言葉の向こうに何が見えるかを常に探求する姿勢を持ってください。また、そのような学生さんが入学してくれることを願っています。